

IV 上尾市の都市計画マスタープラン

上尾市では、平成12(2000)年に最初の上尾市都市計画マスタープランを策定し、その後平成22(2010)年に計画を一部見直ししながら、都市計画に関する総合的な施策を展開してきました。令和3年には、全国的に進む人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化に対応し、将来においても持続的に発展するまちづくりを実現するため、『上尾市都市計画マスタープラン2020』を策定しました。なお、本計画は社会環境の著しい変化や上位計画である上尾市総合計画の見直しなどに伴い、必要に応じて見直すこととします。

1. 「上尾市都市計画マスタープラン2020」の構成

都市計画マスタープランは「基本構想」「分野別方針」「地域別方針」から構成します。

第1章 計画の概要

第2章 上尾市の現況特性とまちづくりの課題

第3章 基本構想

1. まちづくりの基本方針

①将来都市像 ②まちづくりのテーマ ③まちづくりの基本目標

2. 将来展望人口

3. 将来都市構造

第4章 分野別方針

1. 土地利用方針

2. 都市施設の整備方針

3. 公共交通の整備方針

4. 都市防災の方針

第5章 地域別方針

1. 上尾地域

2. 平方地域

3. 原市地域

4. 大石地域

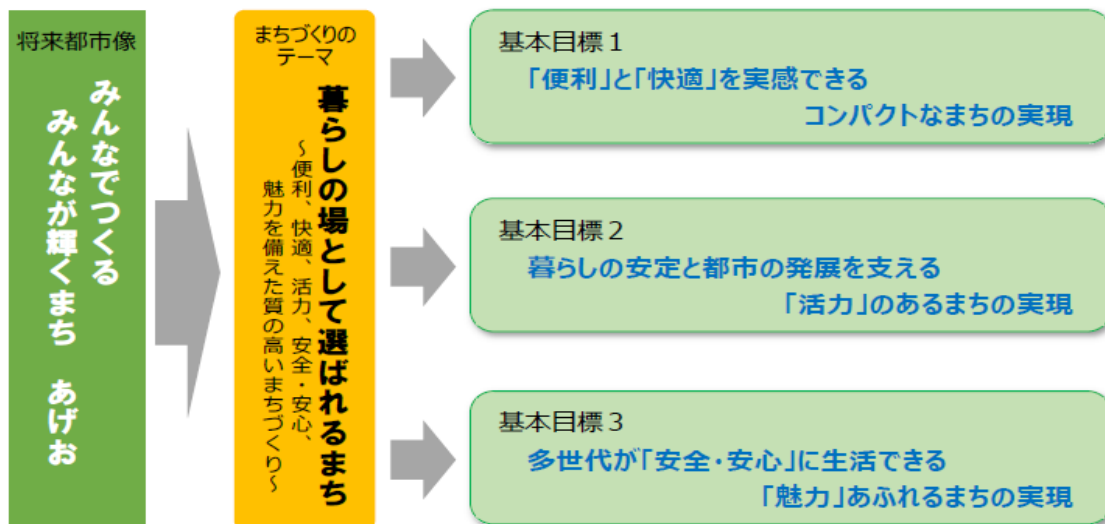
5. 上平地域

6. 大谷地域

第6章 計画の推進方針

2. まちづくりの基本方針

上尾市都市計画マスタープラン 2020 では、第 6 次上尾市総合計画で掲げる「みんなで作る みんなが輝くまち あげお」を将来都市像とし、その実現に向けて、まちづくりを進める上での基本的な考えとして、「暮らしの場として選ばれるまち」をまちづくりのテーマを設定しました。このまちづくりのテーマを踏まえて、次の 3 つを基本目標とし、まちづくりを進めています。

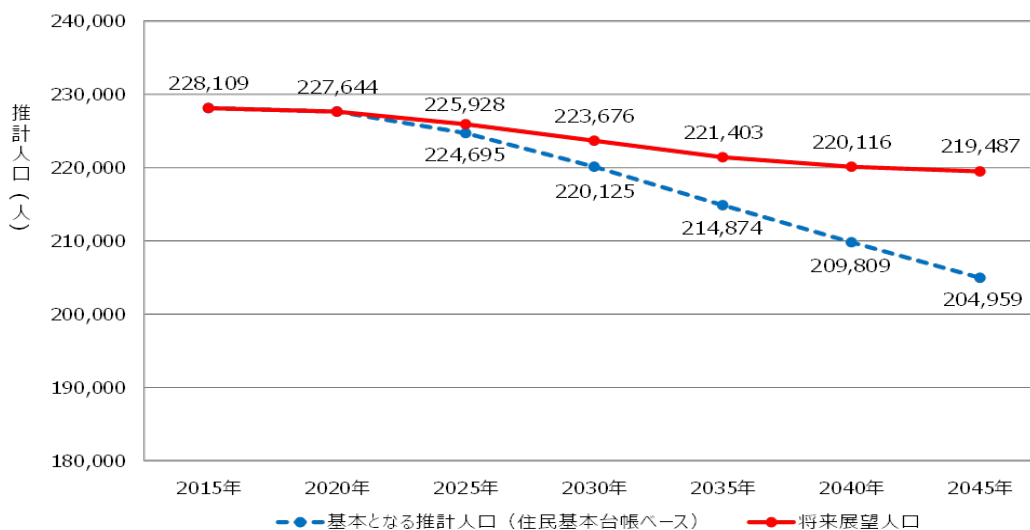


3. 将来展望人口

本市の総人口は、平成 27 (2015) 年までは増加傾向にありましたが、令和 2 (2020) 年にピークを迎え、その後は減少傾向で推移することが予測されています。上尾市都市計画マスタープラン 2020 では、人口減少の抑制を最も重要な目標に位置づけ、将来展望人口を設定しています。

【将来展望人口】

	令和 12 (2030) 年	令和 22 (2040) 年
将来展望人口	223,676 人	220,116 人



資料：第 6 次上尾市総合計画、住民基本台帳（実績値）、国立社会保障人口問題研究所（推計値）

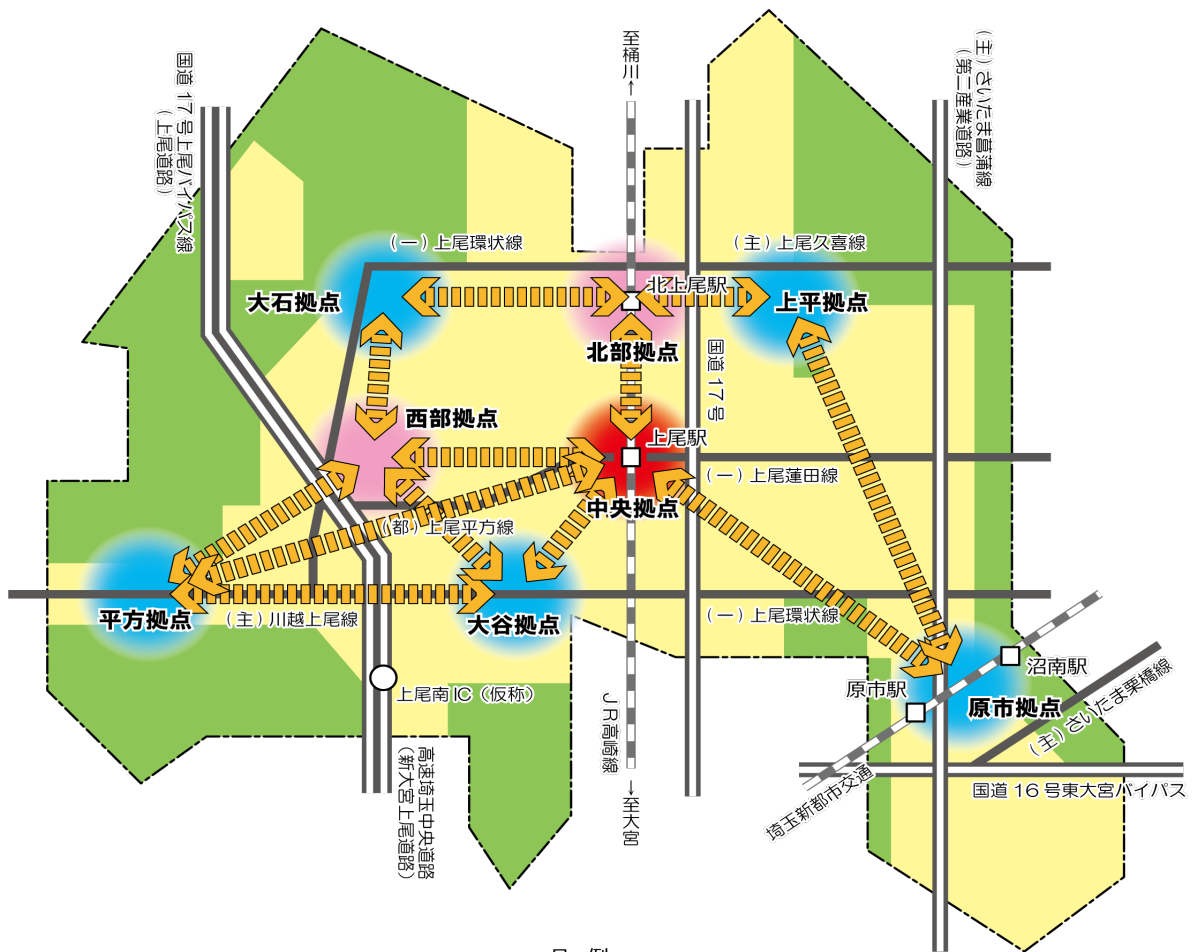
4. 将来都市構造

上尾市都市計画マスタープラン 2020 では、将来都市像を実現するために、暮らしの場の近くに様々な都市機能や働く場が適切に立地し、それらが道路・公共交通のネットワークによって有機的に結びついた「コンパクト・プラス・ネットワーク (※)」型の都市構造を目指しています。

※コンパクト・プラス・ネットワーク

将来にわたり持続可能なまちづくりに向けて、自宅や生活関連サービス施設などがまとまって立地し、住民が徒歩や自転車、公共交通でこれらの施設に容易にアクセスできるまちづくりの概念。

【将来都市構造図】



凡例

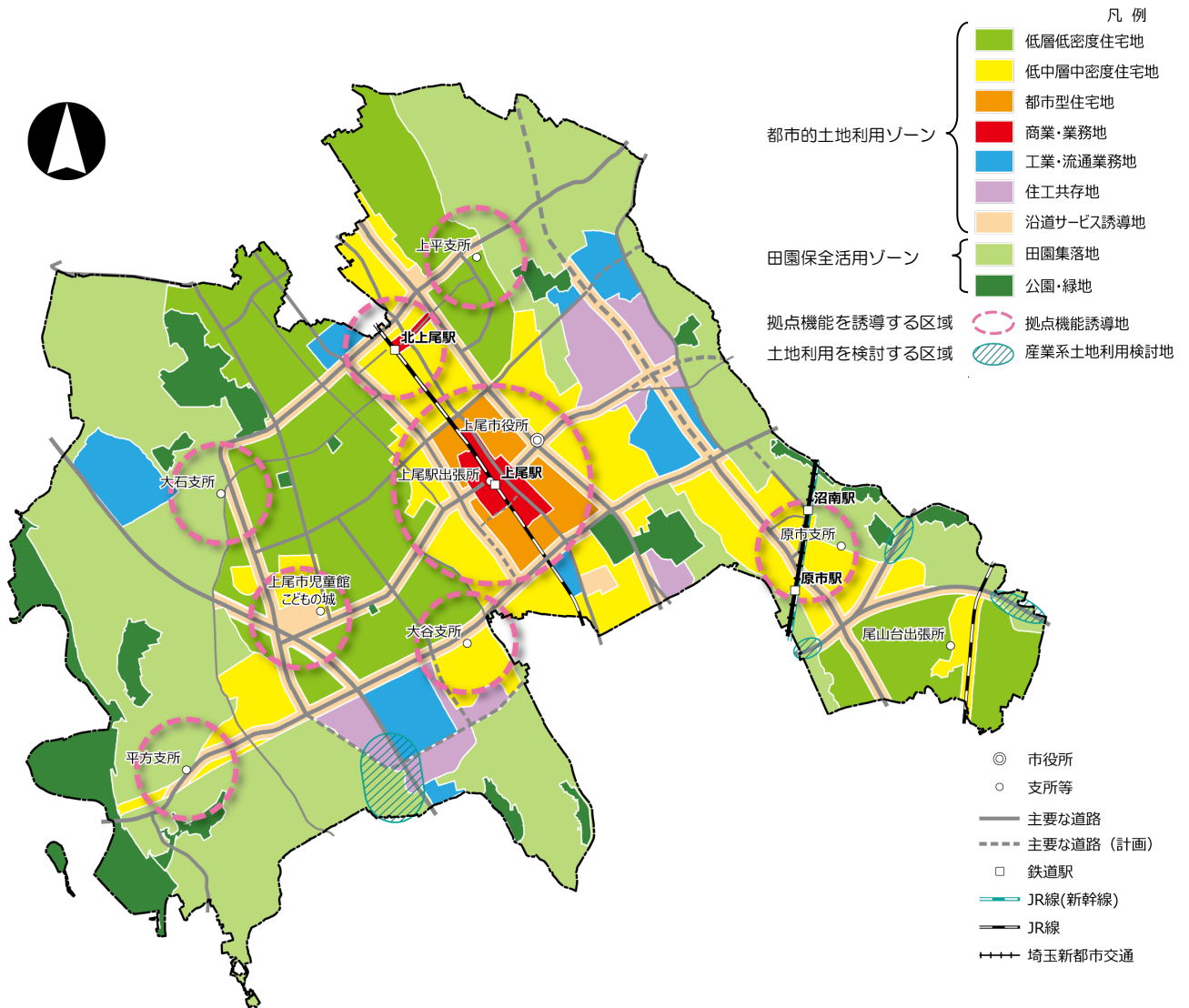
<拠点>	<軸>	<土地利用>
● 中央拠点	交通軸(広域道路)	■ 都市的土地利用ゾーン
● 副次都市拠点	交通軸(地域道路)	■ 田園保全・活用ゾーン
● 地域拠点	交通軸(鉄道)・駅	
	交通ネットワーク	

5. 土地利用方針

上尾市都市計画マスタープラン 2020 では、将来的な人口減少を見据えたコンパクトなまちの形成に向け、鉄道駅周辺や支所周辺などにおける拠点性の向上や、市街地における人口密度の維持に向けた土地利用を進めるため、土地利用方針を定めています。

また、将来都市構造で示した各拠点や土地利用ゾーンの位置づけを踏まえ、各ゾーンにおける土地利用方針を利用区分別に示しています。

【土地利用方針図】



都市的土地利用ゾーン：住宅地や商業地、工業地など都市的な土地利用を図り、便利で質の高い暮らしや様々な都市活動を行う区域

田園保全活用ゾーン：樹林地や農地、水辺などの豊かな自然環境と集落地の調和を維持していく区域

拠点機能を誘導する区域：都市活動や地域の暮らしの中心となる区域

土地利用を検討する区域：幹線道路の整備効果などを活かし、新たな産業の受け皿となる都市的な土地利用への転換を検討する区域